

多摩川先人館

[先人No.1] 多摩川の用水奉行

小泉次太夫吉次 こいずみじだゆうよしつぐ (1538～1623)

小泉次太夫吉次の生誕から用水開削以前までの足跡は、色々な説があり真実は明らかではありません。

駿河国富士群小泉郷（静岡県富士宮市小泉付近）の植松右近泰清の長男という記録は残りますが、これも実子・養子それぞれの説があり、確かではありません。

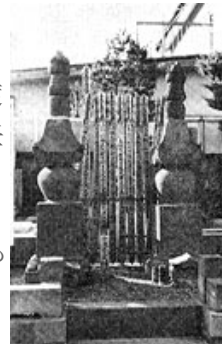


小泉次太夫吉次の像

*

植松家は、渇水が多い反面、雪解けの季節には度々川が氾濫する富士山中腹の地に、鎌倉時代、約2里半(約10km)に渡る鷹岡・伝法用水を開削し、その後682年間も樋代官を歴任してきました。

天正10(1582)年の戦での次太夫の軍功が賞されたという説もありますが、おそらくは、用水開削や治水事業の専門家であった、植松家伝承の技術や知識が重要視され、家康の江戸入城とともに川崎へ移り住み、稲城・川崎代官を務める事になったのではないのでしょうか。



次太夫の墓

武州5万石の稲城・川崎代官となった次太夫は、別名「次太夫堀」とも呼ばれる「六郷用水」や「二ヶ領用水」を開削し、水に乏しかった流域の村々を豊かな水田へと変えました。

両用水の完成から12年後、次太夫85歳でその生涯をとじ、生前、自身と妻の没後の冥福を祈って建立した、川崎区宮前の妙遠寺の墓に眠っています。

年号	西暦	月.日	年齢	略歴
天文7	1538			小泉次太夫吉次誕生
天正18	1590		52	橘樹群小杉村（川崎市）に移り川崎奉行になる。
慶長2	1597	2.1	59	六郷用水および二ヶ領用水の開削に着手。
慶長7	1602		64	徳川家康に、稲毛・川崎の代官に任命される。
慶長14	1609		71	六郷用水・二ヶ領用水幹線の開削工事完了。
慶長16	1611		73	各村々への分水口や小堀用水の工事も終わり、15年にわたる用水開削工事がすべて完了する。
慶長17	1612		74	代官職と領地をすべてを嫡子久弥助吉明に譲り、小杉村の陣屋から隠居。
元和元	1615	5	77	嫡子久弥助吉明、大坂夏の陣に参戦し37歳で病死。
				次太夫、代官職に復帰。

元和2	1616	4.17	78	後半生をかけて仕えた家康が死亡。死を深く悼んだ次太夫は、剃髪入道して宗可と号す。
元和5	1619		81	自分と妻の逆修供養のために、川崎区宮前妙遠寺（みょうおんじ）に2基の五輪塔を造立。同年、稲毛・川崎の代官職を辞す。
元和5	1620		82	次太夫の養子勘九勘九郎吉勝が代官職を継ぐ。
元和9	1623	12.8	85	次太夫85歳で没す。菩提寺 妙遠寺の生前建てた墓に眠る。

次太夫の没後、代官職は養子吉勝を最後として断絶、以後小泉家の水利事業は皆無となりますが、小泉郷の植松家は明治に入る頃まで樋代官を勤め、その長屋門と住居が富士市立博物館に移築、展示されています。



移築展示されている長屋門